



いわいずみ



シリーズ 大家族²³

P2 シリーズ私の復興
あの大津波から10年

P8 魅力ある定住環境を整備

P12 健康で暮らす生涯

P15 町の考えを問う(10議員が一般質問)

P26 どうなりゃんしたあの提言

岩泉三本松の中村謙一さん(左上)7人家族です。毎日にぎやか過ぎて「周りの家はあきれているだろうな」と笑顔で話す、るり子さん(左上2人目)。笑い声が絶えない一家です。謙心君(右下)の卒園式の日撮影しました。

あの大津波から 10年

2011年3月11日。東日本を襲ったマグニチュード9.0の大地震と大津波。小本地区では、大津波が防潮林の松をなぎ倒し、高さ13・3mの水門を越え、瞬く間に多くの家屋をのみ込んでいきました。あの大津波から10年。津波に耐えた一本松は、今も力強く立ち続けています。シリーズ「私の復興」。今号では東日本大震災10年の特別編として掲載します。

復興の象徴 小本須賀の「未来につなぐ希望の松」

この松は昭和8年の昭和三陸津波以降防潮林造成事業により植栽され、小本地区の人々を潮風や飛砂などから守ってきました。東日本大震災津波の被害を受け、ほとんどの防潮林が流失しましたが、この松だけは今もお懸命に生き続け、人々に希望と記憶を伝えています。樹齢推定84年の松に、小本の皆さんから名前を募り、未来への希望を込めて名付けました。これからの小本の発展を願い、ここに紹介します。令和3年3月11日 岩泉町・小本地域復興協議会（現地の看板より）

あの日、あの時。

小本地区で被災された3人から、あの日、あの時の状況。そして、この10年間の思いを聴きました。

一生懸命やってきた 今後は若い人に託す

工藤 洋子さん (小本・71歳)



「残ったのは家の鍵だけだ」と、みんながため息をついたあの日から必死にやれることをやってきました。やっと自分のことが出来るようになりましたが、それには、10年という年月がかかったのかと思っています。平成26年1月、小本漁協女性部長として、いわての浜料理選手権県大会に出場しました。川サケで作った「鮭ん坊」(※)がグランプリを受賞し、みんなで喜び合いました。愛土館も完成して、みんなで一生懸命できることをやってきました。これからは、若い人に託したいと思っています。

急いで船を出し 2日半を過ごす

三浦 安幸さん (小本・57歳)



地震の直後、急いで船を沖に出しました。その後、船上で2日半過ごしました。沖で自衛隊からもらったおむすび。地元の女性部が作ってくれたおむすびの味は今でも忘れられません。陸に戻ったら、小本の惨状を目の当たりにし、浦島太郎状態。家族の無事な姿を見てほっとしました。気を遣ってもらい、もらった酒でやっと寝ることができました。あの酒の味も忘れられません。一言では言い表せないいろいろなことがあります。成長が心の励みです。

被災後も使命感で 山道回り新聞配達

三浦 ミツさん (小本・82歳)



50年以上、小本で新聞店を営んでいましたが、夫婦とも高齢になったため、昨年5月に店を閉めました。津波の時は、慌てて財布と薬だけを持ち、夢中で熊の鼻展望台の方に逃げました。被災後も山道を回りながら、一つずつ新聞を配達しました。新聞店として、皆さんに届けなければという使命感があったのだと思います。あの時は、痛くも痒くもなかったですね。今は、自分の体にあちこち病気が出てきました。夫婦でいたわり合いながら暮らしていきたいと思っています。

(※) 小本川で獲れた川サケを使ったお好み焼き風串揚げ。味のアクセントに岩泉町産の畑ワサビしょうゆたれを使用

次は、復興への足跡

議会の行動

一つ一つできることを

東日本大震災後、議会も手探り状態。一つ一つできることを行い、町の復旧・復興を支えてきました。

町震災復興計画は、23年9月定例会に上程され、全会一致で可決しました。計画期間は23年度から31年度までの9年間。148事業、事業費127億円という大規模なものでした。震災前の町の一般会計の

震災復興計画を23年9月に可決

議員の報酬を月額15%削減 23年6月の第2回定例会では、震災復興の財源とするため、議員の報酬を翌年3月までに月額15%削減することに決定。議員1人当たりの削減額は月額3万1500円。旅費などの経費と合わせて、総額約1000万円の経費を削減。その他、議員は義援金などの寄付行為ができないため、ボランティアで小本地区の清掃活動を行いました。

昭島市からは、東日本大震災、そして28年台風10号豪雨災害時に職員のパワーや多額の寄付金などをいただいています。

友好都市昭島市へ復興支援のお礼に

議会は26年11月、水が縁で友好都市協定を結んでいる東京都昭島市へ、震災復興支援のお礼に出向きました。昭島市産業まつりの会場をお借りし「サケのつみれ汁」と「マツタケのひつつみ汁」合わせて1650食をお振る舞い。昭島市民の皆さまに感謝の気持ちを伝えることができました。



昭島市でのお振る舞い。多くの来場者に感謝を伝えました

今でもあの判断は正しかったと思う

小成 茂さん (元議員) (小本・78歳)



あの時、新年度予算審査特別委員会の委員長でした。突然の大地震に戸惑いましたが、議案審査をまとめ、副委員長を指名してから小本の自宅へ向かいました。

高齢の母の避難を確認し、国道45号に上がった途端、津波が襲来しました。あと数分遅れていたらと思うと危機一髪でした。

今でも、あの日の判断は正しかったと思っています。

取材を終えて

小松 ひとみ

震災から10年が経過。皆さんの気持ちを聴くため小本へ取材に。「思い出すと話が詰まってしまう」と話す人がいました。改めて心の痛みの大きさに気付き、まだまだ心のケアが必要だと痛感。自然災害は、いつ発生するか分かりません。この被害を風化させることなく、常に防災意識を持って生活していくことが大切です。

町の東日本大震災の被害状況

死者	10人
震災関連死	3人
行方不明者	なし
住家被害	208棟 (全半壊含む)
被害額	約44億円



【27年10月】子どもたちの歓声が響くおもとこども園開園



【23年3月】町民の懸命な炊き出し



【28年3月】新たな学び舎小本小・中学校が竣工



【29年9月】被災跡地に浜の駅愛土館がオープン



【26年4月】沿岸復興の象徴三陸鉄道が復旧 岩泉小本駅では大勢の町民が出迎えました



現在の小本地区



【30年3月】三陸沿岸道路 (小本～田老) が開通 開通前のウォーキングでジャンプ



【3年3月】追悼の思い 3.11 メモリアルイベント



【2年3月】震災を語り継ぐ 津波記念碑を建立

復興への足跡

発災後、各地域振興協議会が交代で炊き出しを実施しました。一歩一歩進んだ小本の復興への足跡を写真で振り返ります。

次は、未来の花を咲かせるために

誰もが健康で学び 幸せな生涯が咲き誇る 生きがいの花づくり

- *健康づくり
インフルエンザ予防接種費用を助成
(中学生以下と65歳以上) 431万円
- *子育て支援
医療費助成を高校生の年齢まで拡大
1073万円【関連 26頁】
- *高齢者への支援
介護予防活動への参加者にポイントを付与。商品券
に引き換え可能に 100万円【関連 13頁】



介護予防で健康寿命の延伸を

地域資源を活用し 新しい価値が咲き誇る なりわいの花づくり

- *林業資源の活用
木質バイオマスの研究
- *観光の振興
龍泉洞町営 60周年記念事業を検討
【関連 19・20頁】
- *水産業の維持
小本浜漁協が行う種苗放流、磯焼け対策に支援
367万円



不漁が続いているウニ漁

3つの花づくり

岩泉町未来づくりプランは、本町のまちづくりを進めるうえで、最も基本となる最上位計画。計画期間は、令和2年度から8年度までの7年間で。

基本目標には「生きがいの花」「暮らしの花」「なりわいの花」の3つを掲げています。町の将来像を描き、その実現に向けた基本計画と重点的に取り組む施策、各分野で推進する施策を整理しています。

3年度の主な事業を3つの花ごとにお知らせします。



岩泉町未来づくりプラン



安全安心で 豊かな生活が咲き誇る 暮らしの花づくり

- *防災力の強化
避難所備品などの充実 54万円
- *定住化の推進
岩泉上町地区の宅地分譲に着手
8508万円【関連 8・11頁】
- *町道の整備
いわいずみ子ども園付近の惣畑に向かう交差点の改良工事を実施 424万円



歩行者や車が安全に通行できるよう改良工事が行われます

未来の花を 咲かせるために



みんなで未来の花を咲かせよう

3年第1回定例会は、2月17日から3月12日までの24日間の会期で開きました。初日に行われた施政方針演説(※)で中居健一町長は「コロナ禍で大変厳しい状況ではあるが、未来づくりプラン策定2年目である本年は、未来の花を咲かせるために、種をまき、水をやり、芽を育てていく時期」と述べました。

町長から提案のあった3年度当初予算を含む議案25件、議員提出議案3件を全会一致で可決。その他、請願1件を一部採択(詳細は9頁)しました。



施政方針を行う中居町長

改善と改革を実施し 未来の道を切り開く

町長施政方針

(要約) 28年台風10号豪雨災害からの復旧・復興に全力で取り組んできた。ハード面は一定の目途がついた。被災者の心のケアや生活相談などの寄り添った支援を継続していく。

町の人口が9千人を切り、高齢化率は45%。超少子高齢社会のもとで、持続するまちづくりを進めていかなければならない。

町の諸課題は、持続可能な開発目標(SDGs)の考えを取り入れ施策を展開する。頻発する自然災害や新型コロナウイルス対策も進める。必要な改善と改革を行い、町民の皆さまと共に未来に進む道を切り開いていきたい。

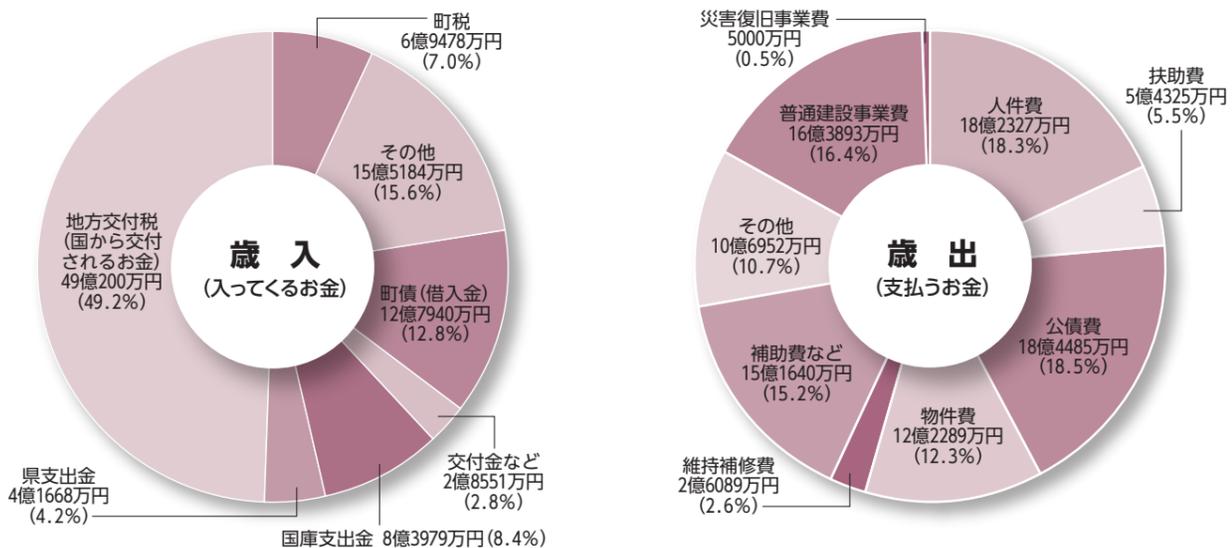


町長施政方針全文

(※) 町長が今年の町政運営の基本方針や主な施策を示すもの

次は、魅力ある定住環境を整備

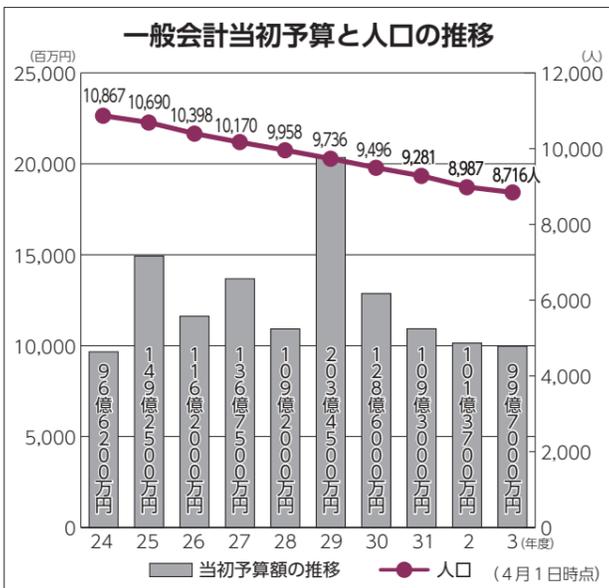
一般会計 99億7000万円の内訳



当初予算の概要

財政用語の解説

- 【地方交付税】町の財政力に応じて国から交付されるお金
- 【国庫・県支出金】町が行う事業に対して国・県から交付されるお金
- 【町債】事業の財源に充てるため国などから借りたお金
- 【人件費】職員の給与
- 【扶助費】児童手当や医療費助成
- 【公債費】事業を行うときに借りたお金の返済金
- 【物件費】旅費や消耗品費
- 【維持補修費】公共施設の維持・管理費
- 【補助費】補助金や交付金など
- 【普通建設事業費】道や学校などの建設費
- 【災害復旧事業費】自然災害などで壊れた公共施設を復旧する費用



3年度 各会計の当初予算額

会計名	予算額	伸び率
一般会計	99億7000万円	△1.6%
国民健康保険		
事業勘定	11億5650万円	△5.1%
診療施設勘定	3540万円	△14.5%
特別会計		
後期高齢者医療	1億2240万円	1.0%
介護保険		
事業勘定	16億4320万円	2.9%
サービス事業勘定	1120万円	0.9%
計		
観光事業	1億8820万円	△11.6%
公共下水道事業	2億6870万円	6.7%
大川財産区	1250万円	56.3%
合計	134億810万円	△1.4%
水道事業(公営企業会計)	11億9592万円	61.4%

請願

3月定例会に提出された請願1件を一部採択し、国の関係機関に意見書を提出しました。

◆安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための請願

* 請願人 岩手県医療労働組合連合会 執行委員長 中野るみ子

* 紹介議員 林崎寛次郎議員

* 付託先 総務常任委員会

* 請願項目

①医療・介護・福祉に十分な財源確保を②公立病院の統合再編の見直し③医師・看護師・介護士などを増員すること④ウイルス研究などを強化すること⑤社会保障に関わる国民負担の軽減を図ること。

* 審査の結果 ①③④は採択。②⑤は不採択と決定(※)

1件を一部採択 意見書を国に提出

(※) 不採択の理由は、公立病院の統合再編は、町議会が関与しない問題。社会保障費の応分の負担は必要と判断

魅力ある 定住環境を整備 宅地分譲に着手

令和3年度の新規事業は、魅力ある定住環境を整備するため、岩泉上町地区に7区画の宅地分譲を整備。3こども園(岩泉・小川・小本)の園児の登園・降園をタブレット端末で管理する委託料などです。

一般会計の当初予算額 99億7000万円

令和3年度一般会計と6特別会計、水道事業会計の総額は、146億402万円。うち一般会計は99億7000万円。前年度から1億6700万円の減(△1.4%)です。

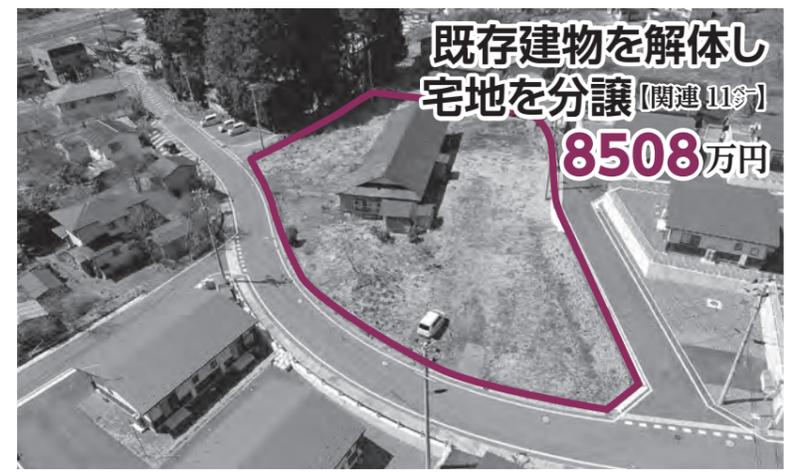
主要因は、28年台風10号豪雨災害からの復旧・復興予算の減額によるものです。

一方、土木費では前年度比1億9256万

円増加。町道メンテナンス線舗装工事1億200万円など、台風災害により実施が見送られていた事業が盛り込まれました。

その他主な新規事業

- *子育て世代包括支援センターを設置【280万円】
- *畑ワサビ生産者などが新たに林間を活用して畑ワサビを開発する場合に間伐や作業路開設に補助【168万円】



ますの声
館洞 康範さん (岩泉・38歳)

ITの利用 歓迎します

他でも登園の管理にタブレットを使用しているのを知っています。今の時代どんどん便利なものを使うのは当たり前になってきましたね。ITを利用するのは歓迎します。

ますの声
長澤 繁夫さん (岩泉・68歳)

住民が増えると うれしいですね

上町の災害公営住宅に住んでいます。冬も寒くなく快適に暮らしています。隣の敷地が整備されて住民が増えることはうれしいですね。早くできることを願います。



ストップ・ナラ枯れ 豊かな森林づくり



ナラ枯れの伐倒・くん蒸処理

森林 ナラ枯れ被害は 主に小本で発生

新年度予算審査特別委員会(坂本昇委員長)は、3月8日から12日までの4日間(11日は休会)開きました。
審査の中では、ナラ枯れ被害の拡大防止や森林づくり、子ども園の待機児童、宅地造成事業などへの質疑がありました。
ここでは、いくつかの内容を要約してお伝えします。

問 ナラ枯れ(※)被害の現状は。

答 主に小本地区で発生している。大牛内、カモイカ山、茂師展望台付近と下中里で確認。被害数量は約140立方メートルである。

問 ナラ枯れ被害の拡大防止は、1町だけの対策では難しい。沿岸全域で進めていくべきと考えるが。

答 宮古地区や県の沿岸広域振興局管内での連絡協議会が開催

されている。森林管理署も含めて情報交換をしている。

問 森林環境譲与税の人口割算定は納得できない。森林面積と人口割の配分比率の見直しを本町から国に求める運動を起こす考えはないか。

答 町村会でも、過疎地域と都市部が今の制度でいいのか議論をしている。理論的に整理し、国に考え方を伝えていく。

問 森林づくりに当たっては、地元のほか、県内外から参加者を募り、協力を得ながら進めてはどうか。

答 森林づくりの参加型都市交流を含めたイベントを検討していく。課題となるのが植樹する場所である。どこを選定するかがポイントになる。昭島市などとの交流をいろいろなところで取り組んでいきたい。

町のナラ枯れ対策

町のナラ枯れ対策はこれまで、被害木の伐倒・くん蒸(薬剤で殺虫すること)を中心とした処理を行ってきた。令和3年度は、ナラ枯れ対策事業補助金120万円を計上。被害を受ける前の大径木のナラなどを伐採し、チップ化にした山林所有者や事業者に補助金を交付します。

おしえてぴーちゃん
(※)ナラ枯れとは？
カシノナガキクイムシが運ぶナラ菌(病原菌)によって枯死する樹木の流行病です。
ブナ科のコナラ属を中心に被害が発生し、特にミズナラの大径木が最も危険です。(岩手県林業技術センターの資料より)

ますの声
阿部 剛史さん(岩泉・58歳)
ナラ枯れは死活問題だ
原木シイタケを生産しています。生産者にとってナラ枯れは死活問題になります。何とか現状より広がらないように対策をお願いします。

子育て 待機児童はあるか 3人の待機がでる

問 2年度は、こども園で待機児童が発生した。新年度は解消されるのか。

答 新年度の保育士などの職員数では、3人(岩泉1人、小本2人)の待機児童が見込まれる。(※)

問 待機児童解消に向けた取り組みは。

答 保育士確保に向けて、地域おこし協力隊に募集をかけている。保育士以外にも、資格基準を満たす看護師や教員免許所有者の募集も行っている。

住宅 宅地分譲に条件は 定条件を付けず募集

問 上町地区宅地分譲事業の内容は。

答 本町の最重要課題である定住化を図ることを目的としている。面積約1900㎡に7区画の分譲を計画している。

問 4月から詳細設計に入り、11月以降に分譲開始を予定している。価格は、これらの設定になる。

問 申請に資格などの条件はあるか。

答 条件は付けないで募集を行う予定である。

政 策 町民アイデアの今後は 町の活性化につなげる



個性と自主性を生かした活動を行う団体に補助

問 町民アイデア実践事業の成果は。

答 2年度は5団体から応募があり、プレゼンを実施。全ての団体の事業に補助金を交付した。各方面から好評を得ている。

問 3年度の見通しは。

答 学校や女性団体、各種事業体などからの応募に期待。広いアイデアで町の活性化につなげていきたい。

ますの声

北俣 清人さん(小川・35歳)

盆踊りを復活
今後も続ける

小川地域つなげ隊では、盆踊りの復活に町民アイデア実践事業を活用しました。地域コミュニティの醸成に役立ち、帰省した皆さんにも喜ばれました。今後も続けていきます。



一般会計

総括質疑

総括質疑とは、審査する案件全般に対して行うもの。一般会計予算案に3議員が総括質疑を行いました。要約してお伝えします。



畠山直人委員

問 町の課題などは、宮古市と連携して進めるべきでは。

町長 宮古市も含め、下閉伊北部地域の共通した課題もある。道路整備や交流人口など、しっかりと連携し取り組んでいく。



野館泰喜委員

問 町長の任期が1年を切った。今の思いは。

町長 国会議員や国の各省庁に向いて、根気強く地方の声をぶつけていきたい。町民が、この町で生活して良かったと思えるような環境を作っていく。



三田地久志委員

問 当初予算案の中で、町長が特にこだわった点は。

町長 一番は、財源対策。自主財源を確保す



会議録



議決結果

(※) 後日、役場の人事配置やこども園のクラス編成を工夫し、4月時点では待機児童が生じない見込みとの報告がありました

次は、健康で暮らす生涯

健康で暮らす生涯

介護保険を考える



健康づくりは日ごろの運動習慣から（ノルディックウォーキング）

条例補正予算審査特別委員会（三田地久志委員長）は、3月1日と3日に開きました。介護保険条例の一部改正の審査では、保険料を増額することに議論が集中。ここでは、介護保険に関する質疑と介護保険料の現状や今後の町の取り組みをお伝えします。

（65歳以上の人の介護保険料基準額の見込みは。10年後は月額8200円、20年後は9600円と推計している。

介護保険料の今後は 10年後月8200円

問 介護保険料が3年ごとに上がっている。第8期計画の介護保険料を上げなければならぬ理由は。

答 介護職員の待遇改善が図られるよう、人材確保に力を入れた改定となっている。

問 介護施設利用者の増加。介護事業所で働いている人の賃金などを改善するための介護報酬の増が主な理由である。

答 介護施設利用者の増加。介護事業所で働いている人の賃金などを改善するための介護報酬の増が主な理由である。

問 報酬改定では、介護人材を確保するための待遇改善などが示されているか。

答 赤字を出さない方向で考えている。余剰金が増え過ぎないことにも配慮した。

問 保険料を上げることで、赤字を出さないで運営を行えるか。理解してよいか。

答 今後、予想される第1号被保険者

問 施設入所者の介護度が改善された事例はあるか。
答 介護老人保健施設では、事例がある。



ますの声

体操するのが私の生きがい
あづまりっこで百歳体操がある時は、一度も休んだことがありません。家でも朝、体操しています。みんなと一緒に体操するのはうれしくて、私の生きがいです。

保険料

20年間で、月額4000円上昇

町の介護保険料は、3年ごとに見直されてきました。

平成12年度第1期計画の第1号被保険者の介護保険料基準額は、月額2900円。令和3年度第8期計画では、月額6900円と

20年間で約2.4倍、4000円も上昇しています。

第8期計画での県内平均は月額6145円。県平均と比較して本町は755円高いこととなります。

【下のグラフ参照】

第1号被保険者の保険料は、月額6900円の基準額をもとに、所得に応じた負担となるよう、9段階に分けられています。

比較

町の介護保険料 県内2位の高さ

高齢化率は県内4番目

本町の第8期介護保険料基準額（月額）は、6900円。県内で2番目の高さです。県内で最も介護保険料基準額が高いのは、西和賀町で8100円。一方で一番低いのが、金ケ崎町の5100円。

西和賀町は高齢化率（65歳以上の人口割合）が県内一高く、令和2年1月1日現在49.30%。本町は43.47%で県内4番目に高い水準です。

金ケ崎町の高齢化率は29.98%で県内33市町村中29番目に位置しています。県内平均は37.11%です。

高齢化率と介護保険料には深い関係があると考えられます。



第8期介護保険料基準額と高齢化率

自治体名	順位	介護保険料	順位	高齢化率
西和賀町	1	8,100円	1	49.30%
岩泉町	2	6,900円	4	43.47%
二戸広域	3	6,714円	-	39.73%
田野畑村	4	6,700円	8	40.11%
宮古市	13	6,150円	19	37.13%
山田町	19	5,600円	15	38.70%
金ケ崎町	24	5,100円	29	29.98%

※二戸広域は、二戸市、軽米町、九戸村、洋野町、一戸町が共同で介護保険を運営。高齢化率は、令和2年1月1日現在

新規

介護予防を行い商品券をゲット

健幸アップポイント事業

町民が楽しみながら介護予防や健康づくりに参加できるように、活動実績に応じてポイントを付与。たまったポイントで龍ちゃん商品券500円分と交換できるようになります。

事業の概要

- *対象者…65歳以上の入
- *ポイント対象事業…①介護予防事業②健康づくり事業③各種健診・検診の受診など
- *ポイントの付与…1事業当たり2~30ポイント
- *商品券…50ポイントで500円分の商品券と交換

詳しくは、広報いわいずみ4月号をご覧ください。



予防 無理なく、楽しく、自分に合った運動を

町では、町民の皆さんが要介護状態にならず、健康で過ごすために、健康づくりや介護予防活動の充実・強化に取り組んでいます。議会でも、機会を捉えながら予防活動への支援の在り方や健診受診率向上への提言を

行っています。町民の皆さんも、日ごろの食事に気を付け、無理なく、楽しく、自分に合った運動を続けていくことが大切です。それが、介護保険料の上昇を抑制することにもつながると考えられます。

次は、町の考えを問う

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて所信や疑問をたずねること。報告や説明を求めることです。3月定例会では、10人の議員が登壇し、町政課題への提言や質問を行いました。

10人の議員が登壇

一般質問



町の考えを問う



一般質問全文は、町ホームページで公開しています。スマートフォンはこちらから。

防災訓練を毎年度実施へ

議会基本条例などを改正

議会は、町民に開かれた議会を目指し、平成27年に議会基本条例を定めました。議会内に基本条例推進委員会（坂本昇委員長）を設けて、基本条例の検証や改正の必要性などを協議・検討しています。今回、委員会での協議結果を踏まえ、議員の防災意識を高めるため、毎年度、防災訓練を実施する規定を基本条例に追加しました。

質疑は一問一答を徹底 議案審議をより深める

基本条例推進委員会では、本会議や委員会での質疑応答の方法についても協議。基本条例ではこれまで、論点や争点を明確にするため「質疑応答は、一問一答方式（※）で行うことができる」と規定していました。このたび、一問一答を徹底し議案審議をより深めるため「一問一答方式で行う」に基本条例を改正。併せて会議規則も同様に改正しました。

おしえてぴーちゃん



（※）一問一答方式とは？

一つの議案に対する疑問点を一つずつ取り上げて、納得がいくまで質疑・答弁を繰り返す方法です。そのため、議案の審議を十分に深めることができ、傍聴者にも分かりやすいという特徴があります。

子どもの傍聴を可能に 傍聴環境の向上を図る

本町の傍聴規則には「児童や乳幼児は傍聴



一問一答で行われている委員会審査

席に入ることができない」という制限がありました。

これは、全国町村議会議長会が定める標準的な傍聴規則でした。

今回、少しでも傍聴しやすい環境を整えるため、子どもの入場を制限する規定を撤廃しました。

子ども連れの人でも傍聴できるようにしましたので、傍聴に足をお運びください。

宮古水産高校の存続へ県に要望

宮古地区広域市町村議会連携会議（※）は1月25日、令和7年度に県立宮古商工高への統合が計画されている県立宮古水産高の存続を佐藤博県教育長に要望しました。



水産高校の存続に広域議会で一致団結。左2人目から鈴木隆昭田野畑村議会議員、昆暉雄山田町議会議員、古館章秀宮古市議会議員、佐藤博県教育長、加藤久民岩泉町議会議員

本町議会からは加藤久民議長が県庁教育委員会を訪問。県内唯一の水産高校の存続や養殖科の設置、校舎新築の3項目について要望しました。結果、県の県立高校再編計画から統合案は削除され、当面は、単独高校として存続することになりました。

※宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村の4市町村の議長・副議長で構成する組織



三田地久志議員

問 食に対する安全性や信頼性への関心が高まっている。本町の農林水産物の振興を図り、町内産の食を町民に提供する必要がある。教育や福祉、観光産業などで「食育」を推し進めていくことが、高齢者福祉における介護給付費の抑制にもつながるものだ。食を通して「もの」と「こころ」と共に真

に豊かな地域社会を創造するため、地消地産（地域で消費する物は地域で作る）の推進条例を制定し、取り組む考えはないか。

食育

問 地消地産条例の制定を
答 環境整備を進めていく

理解を深めるためにも大変重要な取り組みである。

これまで、学校給食の地場食材の利用拡大や道の駅などでの農林水産物の販売を推進してきた。今後は、条例を設けている自治体の状況などを参考にし、町民との協働による条例の制定に向けた環境整備を進めていく。



農林水産物の利用で地域内経済の活性化を

17文字のひとりごと

安全は地消地産で確保する

問 「認知能力」とは、数に分かる、字が書けるなどIQで測れる力。「非認知能力」とは、目標に向かって頑張る力、ほかの人とうまく関わる力、感情をコントロールする力、考える力などである。

今後も、家庭での子育ての重要性を保護者と共有していく。保育士や保健師、関係機関と連携を密にし、子どもたちの成長の一助となるよう取り組んでいく。

教育

問 非認知能力で人材育成を
答 関係機関と連携していく

本町の人材育成のために、こども園や学校で「非認知能力」を身に付けることを今後の教育の重点目標とする考えはないか。

町長 「非認知能力」を高める時期は、乳幼児期のとりにわけて3歳未満児の保育が重要であると言われている。こども園における日常の保育活動のほか、運動会や生活発表会などの行事開催に至るプロセスが「非認知能力」の向上に資するものと考えている。

コロナ

問 早急なる経済対策を
答 適時適切に対応する



長引くコロナ禍で、さらなる支援が待たれる自営業者

町長 町はこれまで、コロナ感染予防対策に取り組んできた。中小企業者などの事業者の資金繰り対策や事業継続に対する支援、町内の消費経済活性化対策などの支援策も進めてきた。国の3次補正予算による臨時交付金は、令和3年度予算措置が可能な制度設計になっている。今後、国や県の総合的な経済対策と連動させる。町内の経済団体などと連携しながら、引き続き、感染防止対策や経済対策を行って行く。支援が必要な人に行き渡るよう適時適切に対応する。



畠山 昌典議員

問 長引く新型コロナウィルス感染症の影響により、さまざまな業種で経営が苦しい事業者が増えている。昨年12月に岩泉商工会が行った事業者アンケートでは、事業継続に必要な給付金などの

支援を求める声が多数あった。国の3次補正予算が成立した。町でも、対応を急がなければならぬ。今後の経済対策の内容やスケジュールはどのように考えているのか。

男女平等

問 男女共同参画の推進を
答 幅広い分野で連携する

問 日本は、ジェンダー（※）後進国と言われている。男女格差に対する調査では、世界で下位に位置し、その改善が叫ばれている。町の未来づくりプランでは、男女共同参画の推進について、女性リーダー育成のための学習機会の提供や環境づくりの支援などを行うとしている。

町長 国はこれまで、男女共同参画社会を目指すし、関係する法律を制定してきた。しかし、目標と現実との格差が大きく、関係機関や団体とのさらなる連携強化が求められている。町の推進状況についても、目標値を達成できていない状況である。幅広い分野で連携・協働することが重要である。より良い男女共同参画社会が実現できるよう努めていく。

17文字のひとりごと

思い込み
なかなか抜けず
思い込む

(※) 社会的・文化的に作られる性別



八重樫龍介議員

問 本町では、将来町の発展に寄与する有能な人材を育成することを目的に、独自の奨学金制度を設けている。さらに、定住化の促進を目的に、将来、奨学生が町に就職もしくは、奨学金を納めていけば、奨学金の返還を免除するとしている。奨学金を受けるための条件の中に所得制限がある。定住化や人材

答 確保の観点から所得制限は廃止すべきと思うがどうか。
教育長 町の奨学金制度は、今まで延べ550人を超える学生に貸し付けを行ってきた。定住化対策の返還免除は、奨学金を借り受けている学生の約9割が町外へ進学し、そのまま就職している現状があり創設した。



リモートでのゼミ授業を受け大学進学を目指している岩泉高の生徒

奨学金

所得制限の廃止を

家計の基準は必要

所得制限は、一律に所得基準により制限しているものではない。一家の収入や家族構成などから岩手育英奨学

会の収入判定基準に準じている。学費として支弁できる額の多寡も選考基準に加え、町奨学生選考委員会で総合的に判断している。経済的な理由により就学困難な学生に対して奨学金を貸し付けるという本来の目的に立ち返ると、家計の状況の判断基準は必要と考

観光

コロナ後の交流人口拡大を

龍泉洞 60周年と連動させる

問 コロナワフチンの接種が進むにつれて、外出や旅行などの増加が予想される。落ち込んだ交流人口や地域経済の回復を図るため、電気自動車で龍泉洞を訪れた観光客

答 交流人口は、緊急事態宣言の解除やワフチン接種などで、徐々に拡大が期待される。本年は、龍泉洞町営60周年に当たる。コロナ後の観光客確保は、この記念すべき機会と連動し、現在さまざまな計画を考えている。商品券の進呈などは、電気自動車の充電インフラ整備や利用対象者の確認方法などの課題や効果を検証する。交流人口や地域経済の回復に向けた取り組みを進めていく。

その他の質問

◆公用車をEV化へ

17文字のひとりごと

将来に夢いだけせる奨学金



三田地和彦議員

温暖化対策で山に木を

健全な森へと整備する



植樹をして適正な森林管理を

問 気候変動により、気温や海水温が上昇している。その影響を受けているのが、自然の恵み

答 受け生計を維持している農林水産業である。水産業では、サケの回帰率、青魚の回遊時期異変、貝類、アワビの大不漁、ウニの異常発生による磯やけなど大きな被害が出ている。本町でも、国、県を通じ早急なる温暖化対策を行うべきと考えるがどうか。

町長 本町は、平成14年度に温暖化対策も含めた環境対策の理念と

定住 本町独自の住宅整備を ニーズを捉え検討する

問 本町の住宅関連事業では、町営住宅、定住促進住宅、子育て応援住宅や教員住宅を進めてきた。他に宅地分譲も行っている。さらなる人口減少対策の一つとして、今までの事業とは違った、本町独自の住宅を整備する考えはないか。

答 課に一本化した。町営住宅の入居要件の緩和や岩泉三本松地区などの宅地分譲、空き家・空き地バンクの運営による民間住宅の活用などに取り組んだ。その成果も上がってきた。新年度では、新たに岩泉上町地区の宅地分譲を予定している。今後も、他自治体の先進事例を参考にし、移住・定住を希望する人や町に住み続けたいと考える町民の多様なニーズを的確に捉えながら、町独自の住宅施策を検討していく。

17文字のひとりごと

人口減 力を合わせ 阻止しよう

問 本町の山に合った木を植え自然を回復し、温暖化対策に取り組む考えはないか。

町長 これまで、水源の森の設定や広葉樹の植樹、育樹イベントの開催など温暖化対策に繋がる事業を実施してきた。

今後も植樹活動を含め、森林環境譲与税を活用して、森林を適切に管理し健全な森へと整備を進めていく。



畠山 和英議員

問 町では本年度、地域新資源利活用調査事業を実施している。調査の柱は、木質バイオマスボイラーを導入する施設や新の持続的な供給体制の検討、薪ストーブ利活用実態調査などである。

町長 事業化に向けては、木質バイオマスボイラーを導入した場合の費用対効果や原木・薪・チップの適正価格など課題がある。引き続き検討をしていく。木質バイオマスは、本町を代表する地域エネルギー資源であり、再生可能なエネルギー資源でもある。脱炭素社会の達成と事業化に向け関係者を



薪の供給体制整備に向けて薪割体験（元年浅内公園まつり）

交え、ブラッシュアップしていく考えである。

問 おおかわむら地域振興協議会では「薪ステーション」の整備を計画し、薪ストーブの

環境

問 木質バイオ活用の推進は
答 事業化に向け磨きかける

普及推進や薪の供給体制の整備などを進めるとしている。

健康

問 介護予防を町民運動に

答 体制整備を進めていく

町長 介護予防活動に取り組み団体が、30年度の9から現在23に増えた。しかし、活動に消極的な人や人との関

わりが苦手な人もいる。粘り強くアプローチを続けていく。

町長 介護従事者の確保は、大きな課題と捉えている。



坂本 昇議員

問 介護保険料は、介護給付費の増大と介護報酬改定の影響で、引き上げを余儀なくされている。



子どものころから健康教育を

介護給付費の令和元年度決算は、約14億5000万円。平成12年度の約6億5000万円と比較して2倍以上である。

健康寿命の延伸が叫ばれる中、町民運動として介護予防に取り組んでいく必要があると考えるがどうか。

町長 介護従事者の確保は、大きな課題と捉えている。

観光

問 龍泉洞60周年の内容は

答 コロナに配慮し検討中

問 来年度は、龍泉洞町宮60周年である。記念事業や企画の内容は、どのように考えているのか。

問 大雨による出水などで、観光客が龍泉洞を見学できない場合がある。

町長 コロナ禍の下、感染拡大防止に配慮しつつ、どのような事業が実施できるのか、現在、関係者で検討している。

町長 大雨による出水などで、観光客が龍泉洞を見学できない場合がある。

国内外に誇る観光地としてさらなる進化を遂げ、未来の町の発展に結び付くよう取り組んでいく。

町長 VRの活用は、今後、専門家からの指導を仰ぎながら関係機関などと連携し、調査・研究していく。

17文字のひとりこと
町民の意識一つがまちを守る

商工

問 移動販売事業者の支援を

答 事業持続に向け協議する

問 移動販売は買い物弱者の問題を解決する重要な手段の一つである。先の一般質問の答弁では、移動販売事業者の聞き取りと他市町村の情報収集の結果を総合的に調査研究する

町長 移動販売事業者の聞き取りでは、需要の減少、事業主の高齢化、後継者不足や経営の維持が困難なことなどが明らかになった。

17文字のひとりこと
薪資源
山村エネで
脱炭素



野館 泰喜議員

問 二元代表制における町当局と議会の関係をただす。
これまでの関係は、当局の立案を議会で決定するという一方通行の側面が否めない。緩和策として、これまで重要な新規事業は、議会全員協議会でもんだううえで上程する形である。この議論も当日あるいは数日前に資料を送付して、意

見・質疑はないかということになっている。議員全員の理解が得られているとは言い難い。基本計画着手時点での議会の関与を模索するべきではないか。
町長 日々変化する町政課題や町民の要望に対し、財政規律を堅持しながら対応していかねばならない。地方自治制度にお



議会と当局が両輪となって町政の発展へ

地方自治

問 計画前に議会の関与を

答 政策形成から参画検討

る「執行権」と「議決権」相互の役割は尊重しなければならない。議員も首長も直接選挙

され、それぞれ住民に対して直接責任を負っている。
政策の決定段階やそのプロセスで、相互に情報を共有し議論を深めることは重要だ。今後も、政策形成の過程や政策の実施過程に多面的に参画してもらおうよう議会の理解を得ながら検討していく。



合砂 丈司議員

高齢化

問 職員の地域担当制度を

答 実効ある体制に努める

問 本町の高齢化率は44%。安家地区では60%と極めて高い。28年台風10号豪雨災害以降は、人口減少が顕著に表れている。
高齢者を含め、見守りや支え合いにより安心して暮らしていくためには、現在のみならず、私たちの将来の問題としても捉えることができる。
これまで生活してきた地域の中で、持続可能な集落の形成を支援していく必要がある。役場職員の地域担当制度を設け、相談体制の強化を図り高齢化対策を行うべきと考えられているか。



地域を支える役場の支所（安家複合施設）

町長 町全体で人口減少が進み、将来を考えるとその厳しさを身染みて感じている。町では、高齢者が安心して暮らしていけるよう生活支援コーディネーターを配置し、百歳体操を取り組む組織や地域の支え合い活動を行う団体などに支援を行っている。職員の地域担当制度

は、以前に小規模集落への支援策として自主運営が困難な自治会へ地区担当職員として派遣し、自治会活動に協力した経緯がある。今後も、支所や地域振興協議会などと十分に協議を行っていく。地域振興協議会の推進員などの活動強化に注力し、実効ある体制の確保に努めていく。

地域振興

問 地域活動に廃校舎を

答 慎重に検討していく

問 近年の急速な人口減少やコロナ禍により、地域活動がさらに難しくなってきた。地域づくり活動の拠点として、閉校した学校をそれぞれの地域の特徴や声を反映させた、まさに、地域の学校として有効に活用すべきと考えるがどうか。

す予定である。各地域には地区集会施設がある。閉校施設も利用した場合、地域内の維持管理費が二重となる。施設の改修も必要であり、効果的活用や費用対効果も検討しなければならないと考えている。
一方では既存施設の支所などの利活用も考えられる。地域の皆さまとの意見交換なども行いながら、活用については慎重に検討しなければならぬと考えている。

ふるさと納税

問 企業版の体制整備は

答 一元化し職員を増員

問 本町における「ふるさと納税」は予想以上の成果を上げている。規定の返礼品30%と送料、事務手数料などで歩留まり率はこのくらいか。

町長 今後、人口が減少し地方交付税が不透明な状況で自主財源の確保に取り組み体制の強化が必要である。
これまで別々の課で担当していた「ふるさと納税」と「企業版ふるさと納税」を政策推進課に一元化し、職員を増員する。全庁を挙げて寄付金を確保に取り組んでいく。

17文字のひとりこと
高齢化
進む先から
心配が

17文字のひとりこと
言葉での
二元代表
魂入れ



三田地泰正議員

問 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い米価が下落している。地域水田農業の正念場と言える。稲作経営者が安心して作付け転換を進め、主食米と遜色のない所得が得られる水田の活用が必要と考える。地域に合った転作の取り組みなどへ政策支援を安定的に継続するため、どのように取り組んでいくのか。

町長 米価の下落は、消費者の米離れに加え、コロナ禍における外食需要の減少などで在庫量の増加が拍車をかけている。今後の作付け転換などは、需給バランスや生産者の意向なども十分に踏まえながら検討していく必要がある。転作品目は、宮古地方再生協議会で、ピーマンやブロッコリーな



水田と転作も進めている宮本地区

ど地域特性に応じた推奨作物を定め、作付けを推進している。

農業者の高齢化や担い手不足という厳しい状況もある。水田の有効活用を図るべく、地域の地理的状況や農業者の営農形態などに配慮していく。高収益作物の導入や転換作物に応じた農地集積などに取り組んでいく。

農業

問 転作への政策支援を

答 農地集積に取り組む

コロナ

問 中小企業者への支援を

答 県の動向を注視し検討



飲食業者による弁当の出前販売



林崎竟次郎議員

問 地方創生臨時交付金の三次配分額が決定した。本町は、コロナ対応分2272万円、地域経済対応分1億3027万円である。第一次配分からの交付限度額の総額は5億5606万円となっている。町はこの間、感染予

防対策や啓発活動、経済支援などに取り組んできたが、まだまだ先が見えない。そこで、事業規模に応じた、コロナ関連中小企業者などへの事業継続支援金の創設が必要と考える。支援金は、月平均の減少額と事業所の規模に応じて決め、全ての業種を対象と考えるかどうか。

町長 これまで、地方創生臨時交付金を財源として、町内事業者に経済支援を行ってきた。感染症の影響の長期化で、さらなる支援が必要と考える。県では、新たな対策として、経営が悪化している中小企業者に最大40万円を支援すると、県議会2月定例会に関連予算を提案している。今後、県の動向などを注視し、関係機関と情報交換を行い、経済対策を検討していく。

国保税

問 子ども均等割の減免を

答 改正法に基づいて軽減

問 国保税は、協会けんぽ保険料の約2倍となっている。全国では、子どもの均等割減免が増えている。本町でも、均等割減免を判断すべきと考えるがどうか。

4年度からの適用が予定されている。町としては、改正法の規定に基づいて軽減を実施するよう執り進めていく。

その他の質問

町長 今国会に提案された「全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」で、未就学児の均等割の軽減を行う改正が盛り込まれた。令和

- ◆75歳以上の保健事業の実施時期は
- ◆常勤の小児科医師などの確保を
- ◆病後児保育の設置を

教育

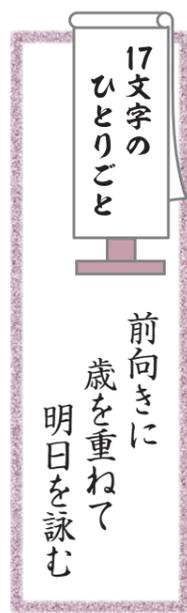
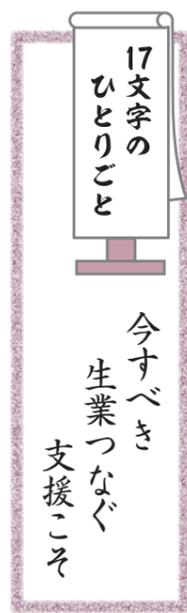
問 GIGA スクールの対応は

答 教員の ICT 研修を進める

問 児童・生徒が一台ずつ情報端末を使えるようにする「GIGAスクール構想」(*)は、コロナ禍により当初の

予定よりも前倒しして教育用端末の整備が進んでいる。導入初年度の準備や具体的な対応は。教育長 町の導入初年度に向けた準備状況は、新型コロナウイルス感染症による学校休業対応などを見据え、昨年12月から、校内で使用していたデジタル教材を家庭のパソコンなどでも利用できるように連携を開始した。新年度は、地域おこし協力隊員による各校の巡回訪問や全ての教員のICT(情報通信技術)活用指導力を向上させることを目的とした研修を進めていく。

(*) 児童・生徒が1人1台のタブレット端末などを使い学習を行うこと



次は、どうなりやんしたあの提言



自治功労賞受賞を記念して（前列左から）坂本昇議員、三田地和彦議員、加藤久民議長、三田地泰正議員、野館泰喜副議長、町村議会広報全国コンクールで2位を受賞した広報広聴常任委員（後列左から）三田地久志委員、八重樫龍介委員長、小松ひとみ副委員長、畠山和英委員、畠山昌典委員。野館副議長も広報広聴常任委員です

医療費助成

**18歳まで対象者拡大を
3年8月から助成開始**

令和2年第1回定例会

（一般質問）

問 令和2年8月から医療費の現物給付の対象者が中学校卒業まで拡大となる。県内33市町村のうち22市町村が18歳（高校生）まで医療費助成を行っている。対象者を拡大する考えはないか。

答 町は、これまで医療費助成の現物給付の拡大やこども園、小学校、岩泉高校への支援など、あらゆる角度から子育て施策を行ってきた。18歳までの医療費助成の拡大については、今後、調査・研究を進めていく。



医療費助成の対象を中学校卒業から18歳になった後の最初の3月31日まで拡大する条例改正案を全会一致で可決しました。助成の開始時期は、3年8月診療分からとなります。

※世帯の所得状況に応じて、一定の自己負担が生じる場合があります。詳しくは、役場町民課国保年金室（☎2212111内線240・ぴー0010224）へ問い合わせてください。

おしあびーちゃん

現物給付…病院を受診した際、世帯の所得に応じて窓口での医療費の支払いが限度額までの支払いが負担が無しになること。
償還払い…病院で、いったん窓口負担分を支払い、後日役場から払い戻しを受けること。

ますの声

支援の拡大歓迎します 昆野 ゆかりさん（小本・52歳）

高校生まで医療費助成が延長になるのはいいですね。子育てにお金がかかるので、支援が拡大するのは歓迎します。

◇子ども医療費助成の歴史◇

開始年月	対象者	助成の方法	備考
昭和48年10月～	0歳児	現物給付	
平成7年8月～	1歳児まで	償還払い	
10年8月～	3歳児まで	償還払い	
14年10月～	小学校就学前まで	償還払い	入院のみ
	4歳児まで	償還払い	外来歯科のみ
16年10月～	小学校就学前まで	償還払い	外来追加
26年8月～	中学校卒業前まで	償還払い	
28年8月～	小学校就学前まで	現物給付	助成方法変更
令和元年8月～	小学校卒業まで	現物給付	助成方法変更
2年8月～	中学校卒業前まで	現物給付	助成方法変更
3年8月～	中学校卒業から18歳になった後の最初の3月31日まで	償還払い	

*子どもへの医療費助成額は、令和元年度決算で986万円。拡大による増額分は67万円を見込んでいます。

地域の振興発展に寄与

全国町村議会議長会と県町村議会議長会は、地域の振興発展に寄与した町村議会議員を自治功労者として表彰しました。

本町議会からは、長年の功績が認められ、5人（全国3人、県2人）の議員が受賞。表彰状は、3月4日の本会議で加藤久民議長が

加藤久民議長

三田地泰正議員

三田地和彦議員

議員在職15年以上

☆県表彰（議員在職11年以上）

野館泰喜副議長
坂本昇議員

議会だよりが全国2位

町村議会広報全国コンクール



全国町村議会議長会 HP

いわいずみ議会だより第190号（2年4月10日発行）が、第35回（令和2年度）町村議会広報全国コンクールで2位となる優秀賞を受賞しました。全国町村議会議長会が主催する同コンクールには全国から311点が応募。この中から選ばれたものです。全国コンクールでの入選は昨年度の10位（優良賞）に引き続き2年連続です。



町民参加の紙面づくりが高評価
ご協力ありがとうございました



町のために 熱い議論を

遠藤 忠裕さん
(岩泉・63歳)

今年、町議会議員選挙があるので、どのような質問や議論をしているのかと思います。初めて議会を傍聴しました。

私は、28年の台風10号で被災し、仮設住宅での暮らしも経験しました。あの時はどうなることかと不安でしたが、議会でのさまざまな議論や協議が行われたことで、復旧・復興がここまで進んだのだと感謝しています。これからも町のために熱い議論を展開してほしいと思います。

3月定例会の傍聴者は延べ9人でした。傍聴された人から感想や議会・町に対する声を聴きました。

傍聴者の声

発言が活発で 感動しました

阿部 千恵子さん
(岩泉・79歳)



議会の傍聴には、一回も来たことがありませんでした。友だちが車で乗せてきてくれたおかげで来ることができました。

議員や職員の皆さんがよく勉強していて、発言も活発でとても面白かったです。この歳でとても感動しています。友だちにも教えたいです。

この町が一つになって課題を解決しようとしているのが分かりました。これからも頑張ってください。

議会を傍聴しませんか

初議会

4月25日は、町議会議員選挙が予定されています。

議長や副議長の他、各常任委員会と議会運営委員会の委員の選任。正・副委員長の互選など新しい議会の体制を決めるため「初議会」を開きます。

今回は、5月10日(月)の予定です。

次の定例会は、

- 6月3日(木) 本会議・一般質問
- 4日(金) 一般質問
- 8日(火) 条例補正予算審査・本会議の予定です。

※都合により変更となる場合があります。

傍聴の際は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、マスクの着用、手指の消毒、体温の測定にご協力をお願いします。

議員は何してんのや

議員や議会は何をしているの?という声を聞きます。ここでは、議会や議員の主な活動状況をお知らせします。(全日程はQRコードで)



議会の動き

1月

- 13日 産業常任委員会所管事務調査(役場)
- 18日 宮古地区広域市町村議会連携会議(宮古市)
- 19日 総務常任委員会所管事務調査(町内)
- 25日 岩手県教育委員会要望(盛岡市)
- 29日 第1回臨時会(議会議事堂)

2月

- 12日 議会運営委員会(役場)
- 17日 第1回定例会(議会議事堂)
広報広聴常任委員会(役場)

3月

- 1日 条例補正予算審査特別委員会(役場:3日まで)
- 3日 本会議(議会議事堂)
広報広聴常任委員会(役場)
- 4日 一般質問(議会議事堂:5日まで)
- 5日 議会全員協議会(役場)
- 8日 新年度予算審査特別委員会(役場:12日まで)
- 12日 本会議(議会議事堂)
- 25日 第2回臨時会(議会議事堂)

編集後記

▽任期最後の議会だよりです。この4年間、八重樫委員長を先頭に6人の委員と事務局の大森さんを含めて総勢7人での紙面づくりが最後を迎えました▽一丸となって目指した全国町村926の頂点は叶いませんでしたが第2位という栄誉をつかむことができました。これは、町民の皆さまのご理解と格別なるご協力もたらしたものと委員一同感謝しています▽台風災害の復旧事業も予定通りの完了を迎えようとしており、5月からは、新たな岩泉町議会がスタートします。

広報広聴常任委員
野館 泰喜

広報広聴常任委員会

委員長	八重樫 龍介
副委員長	小松 ひとみ
委員	野館 泰喜
	三田地 久志
	昌典 和英
	昌典 和英



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。